



中野兼司委員長、新美三良副委員長、鈴木隆真委員、 東昌克委員、伊藤良文委員、広報編集委員をご退任 長年ご貢献いただきありがとうございました

中野兼司委員長（在：11年）

11年間という長きにわたり務めさせていただいた広報編集委員長の職を、退任させていただく事となりました。

今思いますと長くもあり短くもあった「循環あいち」の委員会活動ですが、私にとりまして大変勉強になった期間だったと感謝しております。



また、「情報発信」のやり方の中で「伝える」ことの難しさも同時に学ばせていただきました。

「循環あいち」は会員の皆様はもちろん、行政の皆様や関係各所に幅広く見ていただいております。愛産協がどのような活動をし、我々の想いのベクトルがどの方向に向かっているかを伝えられる唯一の機関誌だと自負はしております。

しかし、世の中は常に移り変わっていくので、「循環あいち」の在り方や情報の発信の仕方も将来的には変わっていくのかもしれませんが、伝える手段は変わっていても、自らの情報発信の大切さを常に忘れずにいてほしいと願っております。

最後に、私は「資源循環」とはモノだけではなく、大切なことを次世代の人に引き継ぎ、循環させていくことがとても重要だと思います。何卒ご理解願ひ、引き続き皆様のご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

長いあいだ誠にありがとうございました。深く感謝いたします。

2024年 6月 吉日

前編集委員長／中野兼司

新美三良副委員長（在：4年）

広報編集委員の拝命を受けたところ、いきなりの副委員長職となり、とても戸惑ったのが本音です。しかし、委員長の中野氏とは懇意であったため、委員会の運営のサポート役を快諾させていただきました。



この機に振り返ってみると、前身の「産業廃棄物処理事業協同組合」時に「青年部会」が発足され、委員長、副会長、そして会長という大役を仰せ付かり、現在に至るまで協会と共に歩み、育てていただきました。

いまや産廃業界は「資源循環」及び「環境保全」を担う業界であることは、環境学習・啓発事業の推進により、幼いお子様から高齢者の方まで、社会全体が周知しております。だからこそ、私たちの業界のイメージアップにつながる広報活動（機関誌、ホームページ、マスメディア、イベント等）は重要であると考えております。

退任後は、これまでの経験と広報編集委員として得たフットワークを活かし、新たな活動にも注力いたしますので、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとして、これまで支えてくださった委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

2024年 6月 吉日

前編集副委員長／新美三良

鈴木隆真委員（在：12年）

忘れもしない「東日本大震災」が起きた年に、広報編集委員会に入りました。

あつという間の十数年間。

『循環あいち』の編集に携わることができて光栄であり、とても勉強になりました。



委員会に入った頃、私は40代前半でした。在籍されていた諸先輩方にお世話になり、いろいろなことを教わり、今の年齢になってわかることも多々あり、本当に勉強になりました。

これからも陰ながら広報編集委員の皆様を応援していきますので、（一社）愛知県産業資源循環協会の発展のために、益々頑張ってください！

皆様、本当に長い間お世話になり誠にありがとうございました。

東昌克委員（在：4年）

4年間という短い期間でありましたがありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症が、猛威を振るいだした中での参加のため、活動規制がある中、Web会議を活用しながら、活動してきました。



広報編集委員会は各委員会の中では、一番活動が多い反面、色々な方と出会うことができ、凄く刺激的な活動経験をさせていただきました。

「循環あいち」は、まだまだ進化しております。これからは、一読者として手元に届くのを楽しみにして見させていただきます。

ありがとうございました。

伊藤良文委員（在：3年）

広報編集委員会を退任することとなりました伊藤です。

広報編集委員会で『循環あいち』の編集に携わり、愛産協の重要性と活動を広く会員に伝えるために、広報編集委員会を定期的に開催して文章をチェックして、校正していく作業は私にとって、多くの学びがありました。



特に、正確で魅力的な情報を提供するための校正作業の難しさを痛感しましたが、その過程で得た知識と経験は非常に貴重でした。

委員になるまでは、支部活動の事業報告が『循環あいち』の記事になる過程や苦勞を考えたこともありませんでした。

広報編集委員会が皆様に分かりやすく伝えることや、資源循環の意識を高めるための情報発信に力を入れているのを体感できました。

校正作業では、文章の細部にわたる確認の重要性を改めて認識しました。さらに、私が広報編集委員会に入った時期は、コロナ禍で集まって委員会を開くのが難しく、リモートで参加させてもらいました。

これまでのご厚情に深く感謝します。ありがとうございました。



ご退任されました委員の皆様、ありがとうございました。

これからの益々ご活躍とご健康を心より願っております。